

2024年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況	2
(3) 主要な事業内容	2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	3~4
2 役員等に関する事項	5
(1) 理事	5
(2) 監事	5
(3) 評議員	5~6
(4) 退任した役員	6
(5) 役員等の報酬	6

事業報告の附属明細書

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況…	7
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】…	7
1 市民活動推進事業	7~17
2 青少年健全育成事業	18~38
3 法人の運営	39

事業報告書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことが定款第3条に定められています。

2024年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体や関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、社会全般の市民活動への価値観の変容を把握するため、学識者や他中間支援組織へのヒアリングや現地見学を行い、現状認識を新たにする取組を行いました。それらを踏まえ、①施設運用において「誰もが気軽に活用できるフリースペース」を目指し、運用やレイアウトの見直し等、様々な対策を講じました。また、②助成金の申請書類やスケジュールの見直しを行い、活動団体がより活用しやすい仕組みへの改善を行いました。今後も市民活動につながる新たな芽吹きを意識しながら、各事業の連携と相乗効果を目指し、更なるバージョンアップを図っていきます。

「青少年健全育成事業」では、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所となるよう、多彩な事業を実施しました。2024年度から5年間の指定管理者として、こども文化センター41館及びわくわくプラザ76校について仕様に即した安定した運営を行うとともに、子どもたちの主体性を育む「こどもまんなか大作戦」やこども文化センターの認知度向上及び地域とのつながりづくりを目的とした「アウトリーチ事業」といった新規事業に取り組みました。

また、法人として、確実な組織運営と健全な財政運営に基づいた運営を進めながら、公益目的事業の推進を図ってきました。さらに、財団が抱える課題を整理するとともに、当財団の市民活動支援と青少年健全育成の二つの機能の相乗効果の発揮と本財団の強みを活かすため、今後の財団の方向性を示す「中長期ビジョン」及び「アクションプログラム」の策定など財団内部の改革にも着手しました。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

(単位：千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	97,115	95,761	98.61%
青少年健全育成事業	3,015,730	3,052,832	101.23%

※千円未満は四捨五入

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況**(単位:千円)**

区 分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (当事業年度)
経常収益	3,394,058	3,570,874	3,621,550	3,200,226
当期経常増減額	17,399	△22,444	△38,576	719
正味財産期末残高	291,596	269,072	230,496	231,215

※千円未満は四捨五入

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 市民活動に関する調査・研究事業 市民活動に関する人材育成及び相談事業 市民活動の促進・支援事業 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成に関する事業 青少年施設の管理運営の受託 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2024年4月1日	川崎市	合計 2,633,066,947 円	2024年4月1日 から 2025年3月31日 まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項**(2025年3月31日現在)**

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局長	亀田 俊夫	2020.4.1	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	大野 秀人	2022.4.1	課の総括	
市民活動推進課長	須藤 純子	2022.4.1	〃	
青少年事業課長	宮舘 政幸	2023.4.1	〃	
青少年事業課主幹	岩堀 誠	2024.4.1	エリアマネージャーの総括	
その他の職員 (派遣職員を除く。)				1,591 人

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2024年 5月31日	議案（決議事項） 議案第1号 2023年度事業報告及び決算 議案第2号 2024年度第2回評議員会（定時評議員会） の開催 専決処分（決議事項） 専決処分第1号 理事による利益相反取引について 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 基本協定書の締結	可決 可決 可決 了承 了承
第2回	2024年 6月21日	議案（決議事項） 議案第1号 理事長の選定について 議案第2号 副理事長及び常務理事の選定について	可決 可決
第3回	2024年 11月21日	議案（決議事項） 議案第1号 規則の改正 議案第2号 2024年度第3回評議員会の開催 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2024年度上半期の事業等 報告第2号 損害賠償請求事件について	可決 可決 了承 了承
第4回	2025年 3月13日	議案（決議事項） 議案第1号 規則の改正 議案第2号 2025年度事業計画書 議案第3号 2025年度収支予算書等 議案第4号 役員等賠償責任保険契約 議案第5号 重要な使用人の選任及び解任 議案第6号 2025年度第1回評議員会の開催 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2024年度第1回及び第2回資金運用委 員会の結果報告 報告第2号 職員採用選考及び昇任試験の結果	可決 可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2024年 4月15日	報告事項 報告第1号 規則の改正 報告第2号 2024年度事業計画書 報告第3号 2024年度収支予算書等 報告第4号 役員等賠償責任保険契約について 報告第5号 2023年度第1回及び第2回資金運用委員 会の結果報告 報告第6号 年度協定書の一部を変更する協定の締結 報告第7号 職員採用選考及び昇任試験の結果	了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第2回	2024年 6月21日	議案（決議事項） 議案第1号 2023年度事業報告及び決算 議案第2号 理事の任期満了に伴う改選 議案第3号 監事の任期満了に伴う改選 議案第4号 評議員の補欠選任 報告事項 報告第1号 基本協定書等の締結	可決 可決 可決 可決 了承
第3回	2024年 12月9日	報告事項 報告第1号 規則の改正 報告第2号 2024年度上半期の事業等 報告第3号 損害賠償請求事件について	了承 了承 了承

2 役員等に関する事項

(2025年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	竹迫 和代	2024.6.21 から 2026.6 定時評議 員会の終結の時 まで	常勤	有	参画 はぐくみ工房 代表
副理事長	石橋 明彦	〃	非常勤	〃	川崎市青少年育成連盟 評議員
副理事長	岡本 克彦	〃	〃	〃	一般社団法人地球社会レジリエ ンスセンター 理事
代表理事 (常務理事)	阿部 浩二	〃	常勤	〃	元川崎市こども未来局長
理事	相沢 滋子	〃	非常勤	〃	川崎市PTA連絡協議会 会計
〃	石井 宏之	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習 財団 理事長
〃	小倉 敬子	〃	〃	〃	文化パートナーズかわさき代表
〃	加藤 亨	〃	〃	〃	川崎市全町内会連合会 理事
〃	久々津 裕敏	〃	〃	無	社会福祉法人 川崎市社会福祉 協議会 事務局 長
〃	土屋 勝	〃	〃	有	川崎市レクリエーション連盟 副会長

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	池野 光弘	2024.6.21 ~ 2026.6 定時評議 員会の終結の時 まで	非常勤	有	税 理 士
〃	岩森 耕太郎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 かわさき MOVEARTOO隊 理事長

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	金子 督	2024.6.21 から 2026.6 定時評議 員会の終結の時 まで	非常勤	有	一般社会福祉法人 川崎市 子ども会連盟 常務理事
〃	齊藤 準	2022.6.23 から 2026.6 定時評議 員会の終結の時 まで	〃	〃	特定非営利活動法人 川崎市 視覚障害者福祉協会 理事
〃	阪本 智子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校 校長
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏 菟 太 鼓 代 表
〃	鈴木 浩之	〃	〃	〃	元川崎市立中学校 校長

評 議 員	竹井 齋	"	"	"	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事
"	橋 たか	"	"	"	合同会社 橋 代表
"	永津 英二郎	"	"	"	税 理 士
"	番匠 一雅	"	"	"	田園調布学園大学教授
"	前田 成東	"	"	"	東海大学 教授

(4) 退任した役員

氏 名	退任時の地位	退任日	退任理由
鈴木 眞智子	副 理 事	2024年6月21日	任 期 満 了
福 田 武 雄	副 理 事	"	"
安 藤 勲	常 務 理 事	"	"
高 田 智 幸	理 事	"	"
浦 野 一 吉	"	"	"
舘 勇 紀	"	"	"
増 田 実	"	"	"
蠟 山 優 二	"	"	"

(5) 役員等の報酬

区 分	人 数	報 酬 の 総 額	備 考
理 事	10人	7,644 千円	常勤及び非常勤
監 事	2人	120 千円	非 常 勤
評 議 員	10人	200 千円	非 常 勤
合 計	22人	7,964 千円	

※理事、監事及び評議員の報酬額は、「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

※評議員の報酬の限度額は、定款第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 ≪2024年度事業報告≫

(2024年4月1日～2025年3月31日)

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員以外の法人等の代表状況等については、5頁の「2 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

全市・全領域の市民活動支援組織として、これまでの実績と知見を活かし、市民活動団体への支援に取り組みました。2024年度の主な取組結果は、次のとおりです。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度の利用登録団体数は、新規 38 団体、計 936 団体でした。

施設・設備名	2018年度 (コロナ禍前)	2022年度	2023年度	2024年度	前年度比較 (増減)
会議室 A	589 団体	550 団体	465 団体	505 団体	40 団体
	6,200 人	4,321 人	3,790 人	4,389 人	599 人
会議室 B	532 団体	440 団体	440 団体	479 団体	39 団体
	4,969 人	3,193 人	3,119 人	3,748 人	629 人
印刷室	573 団体	446 団体	655 団体	607 団体	△48 団体
	1,163 人	765 人	1,065 人	987 人	△78 人
フリースペース他	4,690 団体	2,185 団体	2,203 団体	2,585 団体	382 団体
	20,091 人	8,495 人	9,119 人	10,407 人	1,288 人
パソコン (2 台)	427 団体	315 団体	307 団体	342 団体	35 団体
	715 人	361 人	363 人	381 人	18 人
ロッカー・大 (90 台)	89 台	85 台	83 台	83 台	0 台
ロッカー・小 (9 台)	8 台	9 台	9 台	9 台	0 台
レターケース (54 台)	43 台	46 台	45 台	43 台	△2 台
施設・設備等利用合計	6,811 団体 33,138 人	3,936 団体 17,135 人	4,070 団体 17,456 人	4,518 団体 19,912 人	448 団体 2,456 人

会議の効率化・生産性の向上を目指し、会議室内に大型液晶モニターを設置したほか、フリースペースにおいてはレイアウトの変更や未登録団体及び個人利用も可能とするなど運用方法の見直しを行い、利便性を向上させ利用者の拡大を図りました。

市民活動ブース利用団体

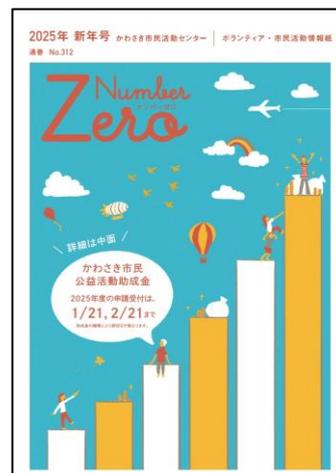
ブース 1	ブース 2	ブース 3	ブース 4	ブース 5
(一社) ICERC Japan	川崎ハイキング クラブ	Women's body labo	(一社) ランドヌ 東京	かわさきこども 食堂ネットワーク

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体に有益な情報を提供するため、季刊 2,500部を発行し、関係団体、市内公共機関等に配布しました。また、希望があった利用登録団体へ郵送しました。

毎号、センター最新情報を掲載し、市民活動団体の運営に役立つ内容となっています。また、こども文化センターで活動する団体の様子を職員がレポートする「こぶんた・わくりんが行く！」を連載しています。



ナンバーゼロ冬号

イ ボランティア募集情報の発信

市内のボランティア募集情報について川崎市社会福祉協議会と共同で調査し、116 団体・施設の募集情報をポータルサイト「応援ナビかわさき」に掲載しました。また、夏休み期間中の主に生徒・学生を対象とした 61 団体・施設の情報を同ポータルサイトに掲載しました。その結果、100 人以上がボランティア活動に参加しました（受入先アンケートによる；回答率 72%）。

ウ 神奈川新聞へのコラム「市民発」の連載

市民の目線で市民活動団体を紹介することを目的に、16 人の市民記者の取材・執筆による記事を、神奈川新聞の協力を得て「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムを、毎月第 2・4 木曜日に 26 回掲載しました。

エ ラジオ出演

かわさき FM で毎月第 3 火曜日に放送している「かわさき ホット☆スタジオ」にセンター職員が出演し、市民活動推進事業について宣伝および情報提供を行いました。



市民発・紙面

オ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体情報、民間助成金等市民活動に関する最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めたほか、2025 年度の大幅リニューアルに向けて準備を行いました。

また、新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（344 人）あてに配信しました。

カ 市民活動推進事業ウェブサイトの運営

市民活動推進事業に関する最新の情報や、センター施設の利用状況等を随時更新しました。また、事業の情報は Facebook や Instagram、YouTube などの SNS でも発信しました。

(3) 活動促進事業

ア ごえん楽市の開催

市民に広く市民活動を伝える場、団体の交流の場として、中原市民館全館及びかわさき市民活動センターを会場に、11月16日（土）に開催しました。当日は62団体（新規10団体）が出展し、約1,650人の来場がありました。

また、主催者企画として専修大学問題解決型チャレンジプログラムの学生による「大学生と遊ぼう」「座談会～社会人と市民活動～」のほか、「市民発」20周年記念企画「いいね！川崎。地域の活動を届けて20年」を実施しました。

イ ごえんカフェの開催

団体や企業などが分野を越えて交流し、新たな協働・連携の芽が生まれる場として、市民活動センターのフリースペースで2回開催しました。第1回は8月30日（金）に開催し16団体22人の参加があり、第2回は2月22日（土）に開催し34人の参加がありました。

ウ ミニカフェの開催

川崎市内にあるコミュニティスペースを会場に、その場所の地域での役割などを知り、参加者同士の情報交換もできる交流会として、以下のとおり開催しました。

回	開催日	地域	会場	参加者数
1	7/10	中原区	川崎市動物愛護センター 「ANIMAMALL かわさき」	23人
2	8/8	幸区	多世代の居場所メロディーココ	11人
3	9/5	高津区	TACHIBANA HUT	7人
4	2/4	川崎区	日進町こども文化センター	9人
5	3/7	宮前区	宮前市民館	25人



TACHIBANA HUT での様子

エ つながるマルシェの開催

市民活動団体などが市民と交流し活動をPRする「つながるマルシェ」を、8月24日（土）と3月22日（土）の2回、ららテラス 武蔵小杉（施設外周部）で開催しました。両日とも各8団体が出展し、体験ワークショップや販売を行いました。親子連れなどの来場者で、両日とも約1,300人と賑わいました。



つながるマルシェ

オ 市民活動メッセージボードの設置

団体の広報活動を支援することを目的に、団体が各種情報を月ごとに掲示できるメッセージボード（パネル）をフリースペースに設置し、27団体が活動紹介やイベント告知などの掲示を行いました。

カ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体（8団体）の広報媒体（リーフレット、動画、HP）を団体と一緒に制作する取組を支援しました。

1月31日（金）には、学生がその成果を発表する「かわさきNPO映像交流会」をフリースペースで開催しました。



映像交流会

(4) 研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体の課題解決とスキルアップに係るテーマで全8回開催しました。受講者アンケートによると、各講座への満足度は平均89.7%となりました。各回の概要については【14頁：別表1①②③】に記載しています。

イ 市民記者ブラッシュアップ講座の開催

市民記者を対象に力量を高めるセミナーを3月19日（水）に開催し、現役記者7人が受講しました。神奈川新聞報道部の渡辺渉記者を講師に、市民記者が手掛けた記事を教材に記事の熟度を高める要点を講義しました。

(5) 相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に関わる相談をセンター職員が対応し、年間で65件の相談がありました。

イ 専門相談の実施

土業のワンストップ体制による専門相談の実績は以下のとおりです。

区 分	件 数	共 催
会 計 相 談	5 件	東 京 地 方 税 理 士 会
法 務 相 談	3 件	よ ろ ず 相 談 会 (行 政 書 士 に よ る 任 意 団 体)
	1 件	神 奈 川 青 年 司 法 書 士 協 議 会
法 律 相 談	3 件	か わ さ き リ ー ガ ル サ ポ ー ト ひ ま わ り (弁 護 士 に よ る 任 意 団 体)

(6) 連絡・調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民文化局市民活動推進課との定例会を1回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を、6月12日(水)に川崎市生涯学習プラザで、3月4日(火)は当センター会議室でそれぞれ開催し、情報交換と協働・連携に向けての話し合いを行いました。

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を4月10日(水)に開催し、事業計画についての情報交換及び共催事業に関する調整等を行いました。

(7) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、職員10回を講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【15頁：別表2】に記載しています。

(8) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2024年度かわさき市民公益活動助成金運営事業に関わる審査等の実施状況は、次のとおりです。

募集期間	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年11月20日～2024年1月19日 ※ステップアップ 30 助成およびステップアップ 100・200 助成（初回） ・2023年11月20日～2024年3月1日 ※スタートアップ助成およびステップアップ 100・200 助成（2～3回目）
審査委員会	第一次審査（書類審査） 3月11・12日、4月26日 第二次審査（公開プレゼン） 5月19日
審査結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ助成 申請 12 団体 交付 8 団体 交付金額 705,814 円 ・ステップアップ助成（30・100・200） 申請 43 団体 交付 36 団体 交付金額 14,468,236 円
交付総額	15,873,120 円（下記随時募集分を含む。） （内訳＝川崎市：12,548,120 円・河川財団：3,325,000 円）

【スタートアップ助成随時募集】

新規設立団体の支援及び掘り起こしを目的に、25年2月までスタートアップ助成の申請を受け付けました。

審査結果	申請 8 団体	交付 7 団体	交付金額	699,070 円
------	---------	---------	------	-----------

また、2023年度助成金交付団体の公開事業報告会を4月7日（日）に実施しました。

(9) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務を受託しました。2024年度の状況は、次のとおりです。

申請件数（対象）	支払済件数	支払済額	前年度申請に係る支払済額
20件（19）	15件	793,343円	1,163,889円

イ 川崎市協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」（Facebookページ）のコンテンツ情報の拡充などを行う管理・運營業務を受託しました。

各コンテンツページの情報更新のほか、「まちレポ」への記事を24本掲載、「応援ナビかわさき」から団体情報や助成金情報を「つなぐっどKAWASAKI」に転載するなど情報の拡充に努めました。

(10) 職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣しました。派遣した研修の内容等については【15～17頁：別表3】に記載しています。

(11) 賛助会員の確保

事業成果報告書を活用するなど賛助会員の拡充に努めた結果、2024年度の収入状況は、次のとおりとなりました。

種別	会費 (1口)	2023年度			2024年度		
		会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額
個人会員	1,000円	46人	230口	230,000円	26人	101口	101,000円
団体会員	5,000円	18団体	20口	100,000円	16団体	17口	85,000円
合計		64人・団体	250口	330,000円	42人・団体	118口	186,000円

(12) 募金・寄付等の取組

ア ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2024年度は31,442円の寄付がありました（前年度58,328円）。

イ 不用品買い取り額の寄付

自主財源を確保する方策として、ブックオフオンラインストアを通じて不用品の買い取り金額がセンターへ送金される仕組み（「キモチと。」）によって37,721円の寄付（前年度197,735円）があったほか、使用済み切手や未使用テレホンカードを売却し51,800円の収入がありました。

(13) その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった15団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 表彰推薦

以下の表彰に推薦を行い、受賞が決定しました。

表 彰	推 薦
令和6年度川崎市社会功労賞	齊藤 準氏

【別表1】パワーアップセミナー

①センター単独開催セミナー

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第1回 5月26日 6月16日	テーマ	活動を盛り上げるショート動画×SNS活用術	18人	センター 会議室
	講師	中山 望 (映像ディレクター)		
第2回 7月28日	テーマ	伝えたい相手に届くチラシと広報	18人	センター 会議室
	講師	並木 節子 (かわさき市民活動センター職員)		
第3回 9月29日	テーマ	発信力アップで組織力アップ	15人	センター 会議室
	講師	船本 由佳 (認定NPO法人森ノオト)		
第7回 2025年 2月15日 3月16日	テーマ	市民活動×企業～活動拠点とまち～ 「市民活動と企業の連携・協働でまちが変わる！」	15人	センター 会議室
	講師	2/15: 石渡 裕美 (NPO法人はたらくらす代表) 3/16: 堀 由夏 (NPO法人みどりなくらし代表)		

②川崎市との共催セミナー

NPO法人向け特別講座

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第4回 10月23日 ・30日	テーマ	NPO法人のための会計講座	14人	オンライ ン
	講師	渡邊由美子 (税理士)		
第5回 12月6日	テーマ	NPO法人のための労務講座	12人	
	講師	菊川 洋平 (社会保険労務士)		
第6回 12月15日	テーマ	資金調達「クラウドファンディングでファンづくり」	9人	センター 会議室
	講師	村田 賢一 (Campfire 公式パートナー)		

③川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第8回 2025年 3月16日	テーマ	大学×市民活動 「学生が参加しやすい市民活動とは？」	14人	センター 会議室
	講師	鈴木奈穂美 (専修大学経済学部教授)		

【別表2】職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象	開催場所
5月～ 25年2月	特定非営利活動法人 森ノオト	パブリック・リレーションズ・サポ- トプログラム	アドバイ ザー	オンライン
7月～ 25年3月	一般社団法人ソーシャ ルコーディネ-トかな がわ	「令和6年度NPOの組織基盤強化の ための伴走支援事業」伴走サポ-ター	県内NPO 法人	オンライン ほか
7月27日	グリーンバード 専修大学	地域とつながる交流会「Re:union」	市民	たまふれあ いグループ セミナール ーム
10月23日	高津区役所まちづく り推進部企画課	令和6年度まちづくりカフェたかつ 「助成金等の採択を目指すための資 料作りやプレゼンテーションのスキ ルを習得しよう」	市民	高津区役所 会議室
12月17日	公益財団法人 公園緑地協会	花と緑のまちづくり講座	市民	市総合自治 会館大会議 室1・2
11月23日 ほか1日	川崎市市民文化局 コミュニティ推進部	川崎ワカモノ未来 PROJECT2023	高校生	新城 WORK パサ-ルベ -ースほか
10月～ 27年2月	川崎市総務企画局 コンプライアンス推 進・行政情報管理部 公文書館	川崎市史市制100周年記念版編集懇 談会委員	委員	市総合自治 会館ほか
11月7日	専修大学ネットワー ク情報学部	大学連携事業中間発表会	大学生	専修大学
2025年 1月18日	川崎市市民文化局コ ミュニティ推進部市 民活動推進課	地域・社会貢献フォーラム2024 カワ サキコネクト	市民	川崎市役所 本庁舎1階 101会議室
2025年 2月1日	川崎市青少年科学館	令和6年度「天文サポ-ター研修 会」	受講生	川崎市青少 年科学館 学習室

【別表3】職員研修

開催日	主催者	内 容	開催場所
5月25日	川崎市中原区 100人カイギ	川崎市中原区100人カイギ #8	山王会館
6月20日	公益財団法人かわさき 市民しきん 川崎プロボノ部	市民講演会「地域コミュニティとプロボ ノ」	オンライン
6月27日	川崎市中原区 100人カイギ	川崎市中原区100人カイギ #9	中原市民館

7月24日	株式会社 STYZ	Brand Pledge で寄付集めの選択肢を増やそう！～活用団体の成功事例を学ぶ～	オンライン
7月30日	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会	災害ボランティアセンターに関する企業ミーティング	川崎市総合福祉センター 6階研修室
7月31日	株式会社 STYZ	ファンの熱量を社会貢献へ: 推し活寄付の可能性を探る	オンライン
8月22日	コングラント株式会社	GIVING for SDGs 2024 説明会	オンライン
8月29日	株式会社 STYZ	NGO/NPO のための ChatGPT 活用セミナー: 日常業務や寄付募集を効率化する 15の方法	オンライン
9月8日	福岡市 NPO・ボランティア交流センター あすみん	グッド アクティビティ フェスティバル 2024 基調講演「これからの 25 年、NPO は何をすればいいのか？」	オンライン
9月12日	SDGs 市民社会 ネットワーク	地域ユニット オープンデー	オンライン
9月24日	NPO 支援財団研究会	2024 秋 WEB シンポジウム「プログラムの狙いを理解して提案力を高めよう」	オンライン
9月26日	かながわ県民活動サポートセンター ボランティア活動サポート課	ボランティア活動支援施設「CEO ミーティング」	かながわ県民センター・コミュニティカレッジ講義室
9月26日	川崎市中原区 100人カイギ	川崎市中原区 100人カイギ #12	中原市民館
10月10日	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	ウォーク連動セミナー【NPO 法人の「解散」講座～「解散」を考える前に知っておきたいこと】	オンライン
10月29日	川崎市川崎区社会福祉協議会 川崎区ボランティアセンター	ボランティア基礎講座	田島老人いこいの家
10月30日	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	ボランティア活動支援施設 新任スタッフ研修交流会	かながわ県民センター711会議室
2025年 1月8日	かながわ県民活動サポートセンター ボランティア活動サポート課	相談対応力向上研修(事例を用いた相互学習会)	かながわ県民センター11階会議室
2025年 1月24日	パナソニックホールディングス株式会社、 NPO 法人日本 NPO センター	組織基盤強化フォーラム「人的基盤から考える組織基盤強化」	パナソニック東京汐留ビル 5F ホール
2025年 1月27日	市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	令和6年度協働・連携研修「楽しい!で地域がつながる「市民創発」のまちづくり」	川崎市役所 101 会議室

2025年 2月9日	認定 NPO 法人日本都市 計画家協会 (JSURP)、 公益財団法人公害地域 再生センター (あおぞ ら財団)	外国人と共に暮らし支え合う地域社会の 形成事業 3 報告会	オンライン
---------------	--	----------------------------------	-------

2 青少年健全育成事業

2024年度の主な取組は次のとおりです。これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター41館・わくわくプラザ76施設等の適切な管理・運営に努めました。

(1) こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安全確保を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。

こども文化センター利用状況推移表

利用者種別	2023年度 (53館)	2023年度 (41館)	2024年度 (41館)	前年度比較 (41館での比較)
乳幼児	259,017人	194,605人	204,268人	9,663人
小学生	636,931人	493,461人	565,077人	71,616人
中学生	168,444人	129,230人	163,527人	34,297人
高校生	26,992人	20,830人	22,566人	1,736人
成人	384,501人	290,455人	301,078人	10,623人
利用者合計 (一館あたり)	1,475,885人 (27,847人)	1,128,581人 (27,526人)	1,256,516人 (30,646人)	127,935人 (3,120人)
内団体利用人数	203,571人	155,159人	154,013人	▲1,146人

※2024年4月より第5期指定管理期間に切り替わり、41館となりました。

こども文化センター満足度調査結果

対象	こども文化センター利用者（乳幼児親子、小学生、中学生、高校生、成人）		
実施期間	11月27日～12月25日	回答者数	4,636人
調査方法	アンケート用紙配付による調査		
	調査項目	満足度	
	こども文化センターは楽しく過ごせますか？	97.4%	
	こども文化センターの行事は充実していると思いますか？	82.9%	
	施設の利用ルールは分かりやすく、安心して利用できますか？	94.0%	
	施設の職員は対応がよく、相談しやすいと思いますか？	91.8%	
	施設の清掃は行き届いていると思いますか？	92.1%	
	総合満足度（平均）	91.6%	

イ 運営協議会の設置・運営

全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の方々が委員となった運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画する等、その役割は多岐にわたっています。

今年度は、全館で合計186回（各館平均4.5回）の運営協議会が開催され、延べ1,915名（各回平均10人）の運営委員の方に参加していただきました。また、各館では、運営協議会の委員の方々に多くのご支援・ご協力をいただき、特色ある行事を開催しました。

ウ 地域組織やボランティア等の活動拠点としての場の提供

こども文化センターでは、児童の利用が少ない時間帯について、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として、利用促進に取り組みました。

また、音楽室が設置されているこども文化センター3館については、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として延べ3,524団体、4,978人が音楽室を利用しました。各施設の利用状況については【30頁；別表1】に記載しています。

こども文化センター団体利用状況推移表

団体種別	2023年度 (53館)	2023年度 (41館)	2024年度 (41館)	前年度比較 (41館での比較)
青少年	3,483団体	2,873団体	3,346団体	473団体
市民活動	10,763団体	8,109団体	8,367団体	258団体
幼児G	4,791団体	3,504団体	3,592団体	88団体
その他	245団体	158団体	156団体	▲2団体
計	19,282団体	14,644団体	15,461団体	817団体

※2024年4月より第5期指定管理期間に切り替わり、41館となりました。

エ こどもまんなか大作戦

こども文化センターが、子どもたちにとって、さらに魅力ある施設となり、より一層「居たい」「行きたい」場所となるために、子どもたちから「こども文化センターでやってみたいこと」を募り、子どもたち自身の力で「現実として形に表す」取組として「こどもまんなか大作戦」を展開しました。

実施に際して、子ども実行委員会等を組織し、子どもたちが主体的に企画を考え、職員や地域の大人がそれを支援しました。また、これに係る予算を計上することで、実現可能な企画の幅を広げました。



自分たちで考えたパンを売ってみたい！【小倉こ文】



みんなで卒パ！【南菅こ文】

オ アウトリーチ事業

近隣にこども文化センターがない地域の公民館や公園等でイベントを開催するほか、地域のまつり等に工作やゲーム・遊びのブースを出店する等、アウトリーチ活動を新規展開し、こども文化センターの役割や機能を子ども、保護者、地域住民、関係機関等へ周知し、地域における認知度の向上に取り組みました。



プラザ田島コラボ企画 夏のお楽しみ会【渡田こ文】

(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラザの行事日程等の情報交換を行いました。また、子どもたちが、放課後・土曜・長期学校休業日等に安心して楽しく過ごすことができる居場所づくりや、保護者が安心して子どもを託すことができる事業運営に取り組みました。

わくわくプラザ利用状況推移表

種 別	2023年度 (102施設)	2023年度 (76施設)	2024年度 (76施設)	前年度比較 (76施設での比較)
在 校 児 童 数	66,077人	46,730人	46,519人	▲211人
登 録 児 童 数	27,822人 (2,164人)	19,635人 (1,509人)	21,774人 (1,705人)	2,139人 (196人)
登 録 率	42.0%	42.0%	46.8%	4.8ポイント
利 用 人 数	2,266,546人 (230,681人)	1,590,526人 (163,542人)	1,774,152人 (191,004) 人	183,626人 (27,462人)
1 日 平 均 利 用 者 数	7,605人 (774人)	5,428人 (558人)	6,055人 (652人)	627人 (94人)

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数です。2019年度より、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

※ 2024年4月より第5期指定管理期間に切り替わり、76施設となりました。

わくわくプラザ満足度調査結果

対 象	わくわくプラザ利用児童保護者		
実施期間	1月20日～2月17日	回答者数	3,702人
調査方法	WEB（アンケートシステム）による調査		
	調査項目	満足度	
	お子様はわくわくプラザを楽しそうに利用していると思いますか？	84.9%	
	わくわくプラザの行事は充実していると思いますか？	78.9%	
	安全が確保されており、安心して利用できると思いますか？	90.5%	
	活動内容は保護者に伝えられていると思いますか？	69.6%	
	スタッフは対応が良く相談しやすいと思いますか？	86.7%	
	総合満足度（平均）	82.1%	

イ 学校において実施する取組との連携

放課後の学校では、「地域の寺子屋事業」「みんなの校庭プロジェクト」等、子どもの学習や運動、体験に関する取組が実施されています。事前にわくわくプラザの活動場所の調整や、双方に参加を希望する子どもの所在確認等の安全面について、学校や事業者等と密に連携して対応しました。

ウ 特別な配慮を必要とする利用者への対応

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、特別支援学校の元教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を7人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

エ 子育て支援・わくわくプラザ事業への対応

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザが終了する午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

子育て支援・わくわくプラザ利用状況推移表

種 別	2023年度 (102施設)	2023年度 (76施設)	2024年度 (76施設)	前年度比較 (76施設での比較)
登 録 児 童 数	2,388人 (161人)	1,660人 (113人)	1,743人 (108人)	83人 ▲5(人)
延 べ 利 用 人 数	86,543人 (6,473人)	63,148人 (4,561人)	61,160人 (4,098人)	▲1988人 (▲463人)
1 日 平 均 利 用 人 数	342人 (26人)	260人 (19人)	252人 (17人)	▲8人 (▲2人)

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数です。2019年度より、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

※ 2024年4月より第5期指定管理期間に切り替わり、76施設となりました。

オ 入退室管理システムの導入

川崎市の仕様書に基づき、児童の安全管理と保護者の利便性向上を目的として、12月～1月にかけて入退室管理システムを全施設に導入しました。これにより、保護者の利便性が向上するとともに、入退室の管理業務の負荷軽減にも繋がりました。



実際の運営の様子

カ 昼食配送サービスのモデル実施

保護者からのニーズも高く、全国的にも放課後児童クラブでの導入が進んでいる「学校長期休業日の昼食提供」について、川崎市と協議を重ね、一定期間にテスト実施を行いました。当財団では夏休み期間に15施設のわくわくプラザでテスト実施を行い、喫食率は約40.1%でした。さらに、春休み期間には全76施設でテスト実施を行い、喫食率は約21.5%でした。



喫食の様子

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 利用者への意見聴取・事業への反映について

「子どもの権利条約」「川崎市子どもの権利に関する条例」の精神に則り、子どもの意見を尊重し、子どもの視点や意見を運営や地域における活動に生かすため、「子ども運営会議」を開催しました。こども文化センターでは延べ486回（各館平均12回）開催し、延べ3,604人（各館平均88人）、わくわくプラザでは延べ871回（各施設平均11回）開催し、延べ34,012人（各施設平均447人）が参加しました。会議を通して意見を出し合い、子どもたち自身が行事の企画・運営や、遊びのルール作り等を行うことで、子どもたちとともに施設運営に取り組みました。

また、運営協議会、イベント実施後のアンケート、意見箱等、様々な手法を用いてニーズを収集し、それらを運営に活かしました。

イ 地域人材の育成と活動支援について

子どもたちで組織する「ちいきっず役立ち隊」を立ち上げ、子どもたち自らが地域とつながる活動に取り組みました。これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚し、地域活動の担い手となるよう育成・支援に取り組みました。

また、こども文化センターでは中高生世代が行事を企画・運営する機会をつくることでボランティア意識を醸成し、多世代をつなぐ役割を担うことができるよう支援しました。



キッズクリーン大作戦【梶ヶ谷こ文】

ウ 地域連携・多世代交流の推進

子どもの成長には、「切れ目のない」支援が必要です。学校生活以外の地域社会とのつながりもその一つであり、継続的に地域活動を充実させ、地域活動の担い手を育成することが、次世代の地域活動につながると考え、様々な地域資源（町内会・自治会、学校・PTA、地域団体、地域ボランティア、いこいの家、当財団の市民活動推進課が連携している団体等）や個人と連携し、多世代交流・地域交流の推進に取り組みました。



スケートボードにCHALLENGE!【大師こ文】

エ 財団独自の取組

(ア) 複数館による合同事業の開催

同一区内又はグループ内児童の親睦と交流の輪を広げることを目的として、モルック大会やデイキャンプ等、複数館により合同事業を実施しました。また、子どもたちが共通の遊びに挑戦し記録を競う「こんちゃれ（今月のチャレンジ）」を毎月実施し、幼児から高校生までの延べ18,155人が参加しました。

(イ) いのちの大切さを伝える事業

子どもたちが発信するSOSを受け止めるだけでなく、自己肯定感や相手を思いやる気持ちを育むために、いのちの大切さを伝える取組を実施しました。

具体的には、シェアドッグスクール、アニマモールへいこう！～いのち・MIRAI教室～、まるるんパーク（中学生と乳幼児親子のふれあい事業）等を実施しました。

(ウ) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成することを目的に、多様性への理解を深める取組を実施しました。



(エ) SDGs（持続可能な開発目標）の取組

「川崎市SDGsプラットフォーム」コアメンバー及び「かわさきSDGsゴールドパートナー」として、利用者がSDGsについての理解を深められるよう、17項目の開発目標に沿った事業を実施しました。



オ 広報

ホームページや「地域版たより」の発行等、これまでの取組を継続するとともに、地域メディアの活用に取り組みました。具体的には、かわさきFMで毎月第4月曜日に放送されている『まちかどからお届け』に出演しました。アナウンサーがこども文化センターを訪問し、館の行事予定や活動の様子等が、生放送で伝えられました。

また、その他のメディアについても、各館が積極的に取材や記事掲載の依頼を行うように取り組みを強化し、延べ22件のメディアに掲載されました。掲載実績は【31頁；別表2】に掲載しています。

カ 施設・設備等の維持管理

(ア) 基本方針

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には、建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて、市との協議を進めるため、業者による建築物定期点検（3年毎）及び建築設備点検（毎年）を実施しました。

(イ) 大規模修繕

30万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっていますが、安全・安心の確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。今年度は当財団が実施した案件はありませんでした。

(ウ) 小規模修繕・軽工事

30万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応しました。

今年度は「エアコン不具合への対応」「水まわり（主にトイレ）」「換気扇」等電機系統を中心に、こども文化センターは140箇所（総額11,909,544円）、わくわくプラザは78箇所（総額5,347,878円）の補修・改修の工事を実施しました。また、簡易的な補修や書棚、遊具棚等の製作においては、現場を熟知している元学校業務職の方々による営繕作業を実施し、迅速な対応を図りました。

キ 職員の研修体制

役職に応じた研修や、関係法令の改正や利用者ニーズを踏まえた効果的な研修（内部講師による研修や市・他団体実施の研修等を含む）を計画的に実施するとともに、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施しました。

また、川崎市や他の団体が主催で行う研修に積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めるとともに、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるよう各館に職員ごとの研修受講記録を備えました。

各研修と受講者数については【32～33頁；別表3①】【34～36頁；別表3②】【36～38頁；別表3③】【38頁；別表3④】に記載しています。

ク 教育実習・インターンシップ等への対応

当財団の社会貢献の一つとして、大学からの教育実習生等のインターンシップを4名受け入れました。受入状況の詳細については【38頁；別表4】に記載しています。

ケ 安全管理・危機管理について

(ア) 基本方針

事故を未然に防ぐとともに、発生後の対応の視点から、各種マニュアルの整備・見直しを行い、状況に応じ適切な対応ができるよう努めました。今年度は「衛生・健康管理マニュアル」を改訂するとともに、法令の改正に伴い「安全計画」及び「業務継続計画」の策定に取り組みました。

(イ) 事故について

遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取り組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討することにより、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進するとともに、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

① こども文化センターでの事故について

こども文化センターで起きた35件の事故のうち、18件は集会室でボール遊びをしているところで発生しました。

こうした事故を未然に防ぐため、職員の定期的な見守りと声かけを強化するとともに、特に集会室で遊ぶ児童に対しては事前の注意喚起を行うよう徹底しました。

こども文化センターにおける事故の件数

月	2023年度 (53館)	2023年度 (41館)	2024年度 (41館)
4月	0 (0)人	0 (0)人	3 (0)人
5月	2 (1)人	2 (1)人	2 (0)人
6月	3 (1)人	2 (0)人	1 (0)人
7月	1 (0)人	1 (0)人	2 (0)人
8月	1 (1)人	1 (1)人	2 (0)人
9月	1 (0)人	1 (0)人	3 (0)人
10月	2 (1)人	2 (1)人	4 (3)人
11月	4 (2)人	2 (0)人	2 (2)人
12月	4 (1)人	4 (1)人	3 (1)人
1月	2 (0)人	2 (0)人	3 (1)人
2月	2 (1)人	2 (0)人	6 (3)人
3月	4 (1)人	4 (1)人	4 (1)人
計	26 (9)人	23 (5)人	35 (11)人

* () は4日以上通院の事故内数

② わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は108件となっています。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲30件、骨折（ヒビ含む）9件、歯の打撲・欠損等13件が挙げられます。対策として、日々の準備運動や注意喚起を強化するよう指示しました。

わくわくプラザにおける事故の件数

月	2023年度 (102施設)	2023年度 (76施設)	2024年度 (76施設)
4月	35 (8)人	19 (3)人	10 (2)人
5月	21 (6)人	12 (5)人	14 (1)人
6月	29 (2)人	14 (1)人	7 (1)人
7月	17 (2)人	14 (1)人	12 (0)人
8月	14 (1)人	12 (1)人	10 (0)人
9月	11 (1)人	8 (1)人	2 (0)人
10月	17 (5)人	14 (5)人	7 (1)人
11月	13 (1)人	8 (1)人	8 (2)人
12月	16 (2)人	13 (2)人	18 (4)人
1月	11 (1)人	9 (1)人	9 (2)人
2月	6 (0)人	2 (0)人	1 (0)人
3月	19 (5)人	10 (2)人	10 (0)人
計	209 (34)人	135 (23)人	108 (13)人

* () は4日以上通院の事故内数

③ その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は25件でした。児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起をするとともに、一人帰りの児童の保護者に対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

(ウ) 防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつ等の声掛けを行い、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を経由して他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

(工) 食物アレルギー事故対策

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

設 名	対 応 策
共 通	アレルギーのある児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。
こども文化センター	当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルギーの確認については、児童ではなく、保護者にさせていただくことを基本とする。 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	わくわくプラザ登録時にアレルギーのある子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルギーチェックをお願いする。 子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックする。アレルギーとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。

(オ) 衛生管理

感染症、食中毒等の予防策として、手洗いを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。今年度は「衛生・健康管理マニュアル」を改訂し、各種対応の再確認を行いました。

(カ) 防災・災害時の対応

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対して、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

今年度は台風10号の影響で、高津区・多摩区・麻生区の一部の小学校で避難所が開設され、わくわくプラザが休室となりました。さらに、警戒レベル4（避難指示）の発令に伴い、土砂災害警戒区域内の柎形こども文化センターと南菅こども文化センターが臨時閉館となりました。いずれも、川崎市と連携し、対応を協議しながら適切に対応しました。

【別表 1】音楽室の利用状況

施設名	利用者	2022年度	2023年度	2024年度	前年度比較 (増減)
南河原	小学生	23人	52人	29人	▲23人
	中学生	290人	138人	202人	64人
	高校生	62人	595人	644人	49人
	一般	365人	308人	614人	306人
	合計	740人	1,093人	1,489人	396人
	団体数	604団体	744団体	1,154団体	410団体
小杉	小学生	61人	54人	91人	37人
	中学生	39人	78人	128人	50人
	高校生	99人	149人	400人	251人
	一般	547人	793人	1,055人	262人
	合計	746人	1,074人	1,674人	600人
	団体数	496団体	720団体	1,053団体	333団体
白山	小学生	36人	34人	156人	122人
	中学生	15人	117人	63人	▲54人
	高校生	307人	338人	258人	▲80人
	一般	1,311人	1,213人	1,338人	125人
	合計	1,669人	1,702人	1,815人	113人
	団体数	1,316団体	1,250団体	1,317団体	67団体
計	小学生	120人	140人	276人	136人
	中学生	344人	333人	393人	60人
	高校生	468人	1,082人	1,302人	220人
	一般	2,223人	2,314人	3,007人	693人
	合計	3,155人	3,869人	4,978人	1,109人
	団体数	2,416団体	2,714団体	3,524団体	810団体

【別表 2】メディア掲載実績一覧

施設名	メディア・媒体名	行事名または内容
白山こども文化センター	J:COM 「ジモトトピックス」	「世界の打楽器で遊ぼう」
柿生こども文化センター	MYTOWN	「キャンドルナイト」
渡田こども文化センター	タウンニュース川崎区・幸区版	マジカル☆おにいとベイブレード体験会
子母口こども文化センター	Itscom「地モト NEWS」	プラザ橘共催事業「なつのおわりのおはなし会&かき氷をたべよう！」
麻生こども文化センター	MYTOWN	あさお食堂「カレーの日」
長尾こども文化センター	川崎市市制 100 周年記念 100 人ほっこりポスター	※行事ではなく、こども文化センター館長の取材
田島こども文化センター	タウンニュース川崎区・幸区版	防犯ポスターづくり
梶ヶ谷こども文化センター	タウンニュース高津区版	認知症キッズサポーター養成講座、館内をオレンジ色に装飾等
錦ヶ丘こども文化センター	タウンニュース多摩区・麻生区版	馬術 初老ジャパン 戸本一真選手がやってくる。
千代ヶ丘こども文化センター	コロコロチャンネル(公式 YouTube)	ベイブレードであそぼう！
新丸子こども文化センター	タウンニュース中原区	MARUCO de 学ぼう～多摩川水族館～
錦ヶ丘こども文化センター	タウンニュース多摩区・麻生区版	こ文 de ハロウィン
枳形こども文化センター 長尾こども文化センター	タウンニュース多摩区・麻生区版	忍者修行
柿生こども文化センター	タウンニュース多摩区・麻生区版	芸術祭
浅田こども文化センター	タウンニュース川崎区・幸区版	レンコンの収穫祭
かわさき市民活動センター	タウンニュース川崎区・幸区版	竹迫理事長の挨拶、かわさき市民活動センターの紹介
東門前小 わくわくプラザ	タウンニュース川崎区・幸区版	川崎大師ロータリークラブ 贈呈式
大戸こども文化センター	タウンニュース中原区版	げた箱リフォーム
東小田小 わくわくプラザ	朝日新聞	ぼうさいマップコンクール表彰式
東小田小 わくわくプラザ	神奈川新聞	ぼうさいマップコンクール表彰式

渡田小 わくわくプラザ	神奈川新聞	ぼうさいマップコンクール表彰式
高津区こども 文化センター	タウンニュース高津区版	高津区コミュニティゲーム・eスポーツ大会

【別表3】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
新任館長・主査研修	青少年事業課 課長、主幹、職員係長、 エリアマネージャー 社会保険労務士	館主 長査	9人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅰ）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設 係、人材育成係（係長、主任、 職員）	館職 長員	10人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅱ）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設 係、人材育成係（係長、主任、 職員）	館職 長員	14人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （普通救命講習Ⅲ）	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館職 長員 臨時職員	20人	中 原 消 防 署
新任館長・新任職員研修 （フォローアップⅣ）	青少年事業課 主幹、人材育成係（係長・主任） 予算係（主任） エリアマネージャー（係長・主任）	館職 長員	17人	財 団 本 部
新任わくわくプラザ担当者 運営研修	青少年事業課 職員係、施設係、人材育成係 エリアマネージャー	職主 員査	12人	財 団 本 部

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
新任館長運営研修	青少年事業課 主幹、人材育成係（係長） エリアマネージャー	館長	8人	財 団 本 部
主任本部体験研修	青少年事業課 職員係、事業係、人材育成係、 エリアマネージャー（係長、主 任）	主任	8人	財 団 本 部
主任研修 （本部体験研修【全体説明】）	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設 係、人材育成係（係長、主任、職 員）	主任	7人	財 団 本 部
主任研修 （新任研修体験談発表）	青少年事業課 エリアマネージャー	主任	1人	財 団 本 部
主任研修 （館長会議参加）	青少年事業課 課長、主幹、係長、エリア マネージャー	主任	3人	生涯学習プラザ

職員の心構え研修	青少年事業課 人材育成係（係長）	主 査 主 任 職 員	121人	中 原 市 民 館
臨時職員の心構え研修	青少年事業課 人材育成係（係長）	臨 時 職 員	232人	中 原 市 民 館
カワサキケイカンボードゲーム 研 修	川崎市まちづくり局 計画部 景観・地区まちづくり支援担当	館 長	41人	総 合 自 治 会 館 大 会 議 室 1 . 2 . 3
館長・職員中高生対応研修 映画「14歳の栞」上映会	株式会社 PARCO	館 主 主 任 職 員	112人	総 合 自 治 会 館 ホ ー ル
公開型職員研修中高生対応研修 映画「14歳の栞」上映会	株式会社 PARCO	館 職 臨 時 職 員	82人	中 原 市 民 館 多 目 的 ホ ー ル
事 故 対 応 研 修 「子どものセーフガーディング 研 修」	公益社団法人セーブ・ザ・チルド レン・ジャパン チャイルド・セーフガーディ ング・スペシャリスト 金谷 直子氏	館 長	12人	財 団 本 部
健全育成スペシャリスト 養 成 講 習	株式会社ユーキャン 担当者	主 任	1人	オ ン ラ イ ン
健全育成スペシャリスト 養 成 講 習	一般社団法人日本アンガーマネジ メント協会 担当者	職 員	1人	ミ レ ヌ ー ブ ル
館 長 ・ 主 査 研 修 お 出 かけ 企 画 ～ 好 事 例 から 学 ぼう 研 修	法政大学 教授 名和田是彦氏	館 主 長 査	36人	法 政 大 学 法 学 部 名 和 田 研 究 室
	府中市市民活動センター 館長 林丈雄氏			府 中 市 市 民 活 動 セ ン タ ー
	宇都宮大学 教授 石井大一郎氏			宇 都 宮 大 学
	(株)パブリックサービス			逗 子 文 化 プ ラ ザ 市 民 交 流 セ ン タ ー
	仲町台地区センター 館長 足立氏 副館長 山田氏			仲 町 台 地 区 セ ン タ ー
	中原区保育子育て総合支援センタ ー			中 原 区 保 育 子 育 て 総 合 支 援 セ ン タ ー ・ 中 原 保 育 園
	こども未来局総務部			川 崎 市 役 所 こ ど も 未 来 局
	アクションポート横浜 代表理事 高城 芳之氏			ア ク シ ョ ン ポ ー ト 横 浜 事 務 所
	外国人と共に暮らし支え合う地域 社会の形成事業共同体			シ テ ィ ラ ボ 東 京
	NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ 崎 特定非営利活動法人			N P O 法 人 ま ち づ くり ス ポ ッ ト 茅 ヶ 崎
NPO サポートちがさき	茅 ヶ 崎 市 役 所 分 庁 舎 6 階 コ ミ ュ ニ テ ィ ー ホ ー ル			

	コミュニティサポートセンター神戸 理事長 中村氏			コミュニティサポートセンター神戸
	一般財団法人明石コミュニティ創造協会 常務理事兼事務局長 柏木登起氏			ウィズ明石 東播磨生活創造センター かわのまちリビング

②財団主催研修（グループ単位）

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
川 崎 区 第 1 G ~ 3 G	川 崎 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	29人	旭町こども文化センター
川 崎 区 第 1 G ~ 3 G	川 崎 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	29人	日進町こども文化センター
幸 区 第 1 ・ 2 G	幸 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	28人	下平間こども文化センター
幸 区 第 1 ・ 2 G	ポ ッ チ ャ 大 会 審 判 講 習 会	南加瀬こども文化センター 館長 本吉 有美 下平間こども文化センター 館長 永岡 ひとみ	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	17人	下平間こども文化センター
中 原 区 第 1 ・ 3 ・ 4 G	中 原 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	30人	大戸こども文化センター
中 原 区 第 1 ・ 3 ・ 4 G	中 原 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	18人	平間こども文化センター
中 原 区 第 1 G	安 全 管 理 研 修 (転 び 方 研 修)	瀬戸山 隆 氏	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	21人	小杉こども文化センター
中 原 区 第 3 G	S D G s に つ い て	特定非常利活動法人 かわさきスポーツドリマーズ 小泉 英夫 氏	館主 長 主職 査 臨時 任 職 員	26人	西加瀬こども文化センター

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
中 原 区 第1・3・4G	アナログゲーム 療 育 研 修	アナログゲーム 療育アドバイザー 放課後等デイサービス コンサルタント 松本 太一氏	館主 長 主 査 任 員 職	22人	小杉こども文化 セ ン タ ー
高 津 区 第 3 G	高 津 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	29人	梶ヶ谷こども文化 セ ン タ ー
高 津 区 第 3 G	衛 生 管 理 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	51人	末長こども文化 セ ン タ ー
高 津 区 第 3 G	ぼ う さ い 研 修	高津区役所危機管理室 寺林 氏 山岸 氏	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	43人	末長こども文化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 1 ~ 3 G	多 摩 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	29人	長尾こども文化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 1 ~ 3 G	多 摩 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	23人	中野島こども文化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 1 G	聞こう！子どもの声	川崎市立小学校 元校長 和田 淳二氏	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	29人	枅形こども文化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 2 G	校 外 活 動 研 修	錦ヶ丘こども文化センター 館長 寒水 晃世	館主 長 主 査 任 員 職	6人	江ノ島水族館
多 摩 区 第 2 G	応 急 手 当 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	39人	三田こども文化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 3 G	工 作 研 修	菅こども文化センター 中野島こども文化センター 南菅こども文化センター 職員・臨時職員	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	25人	中野島こども文化 セ ン タ ー
麻 生 区 第 1 ~ 3 G	麻 生 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 長 主 査 任 員 職 臨 時 職 員	28人	麻生こども文化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
麻 生 区 第 1 ～ 3 G	ア ナ ロ グ ゲ ー ム 研 修	アナログゲーム 療育アドバイザー 放課後等デイサービス コンサルタント 松本 太一氏	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	86人	麻 生 市 民 館 大 会 議 室
麻 生 区 第 2 G	合 同 野 外 活 動 事 業 事 前 研 修	虹ヶ丘こども文化センター 館長 品川 典子	館 主 職 長 査 任 員	8人	横 浜 市 くろがね 青 少 年 野 外 活 動 セ ン タ ー
麻 生 区 第 3 G	モ ル ッ ク 研 修	白山こども文化センター 館長 中川路 ふみ子	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	4人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー 及 び 山 口 台 公 園 (麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー 隣)
麻 生 区 第 3 G	野 外 活 動 事 前 研 修	麻生こども文化センター 館長 川上 成子	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	8人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

③川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内わい)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第 1 回 特別な配慮が必要な児童とその保護 者 へ の 理 解 と 支 援	発達障害を手がかりとした ユニバーサルデザイン コンサルタント 橋口 亜希子氏	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	201人 (139)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (各こども文化センター)
第 2 回 外 国 に つ な が る こ ど も の 支 援	神奈川県立地球市民かながわ	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	111人 (82)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (各こども文化センター)
第 3 回 こ ど も の 権 利	認定 NPO 法人教育活動 総合サポートセンター 顧問理事 山田 雅太	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	174人 (152)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (各こども文化センター)
第 4 回 児 童 虐 待	認定 NPO 法人チャイルドファ ーストジャパン 理事長 山田 不二子	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	193人 (185)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (各こども文化センター)
第 5 回 地 域 施 設 や 組 織 の 理 解 と 連 携 の 工 夫	特定非営利活動法人 日本スクールソーシャル ワーク協会 会長 入海 英里子	館 主 職 臨時職員 長 査 任 員	112人 (92)	生 涯 学 習 プ ラ ザ (各こども文化センター)

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内わい)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第6回 地域施設や組織の理解と 連携の工夫	特定非営利活動法人 日本スクールソーシャル ワーク協会 会長 入海 英里子	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	75人 (62)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第7回 いじめの理解と対応	認定NPO法人 エンパワメントかながわ 理事長 阿部 真紀	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	187人 (131)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第8回 保護者・家庭との連携	元横浜市中学校長 児玉 政徳	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	126人 (98)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第9回 学校や地域との連携	認定NPO法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長 栗林 知絵子	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	65人 (48)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第10回 アンガーマネジメントによる感情の 理解	一般社団法人 共生と共育ネットワーク アンガーマネジメント コンサルタント 代表理事 木村 尚文	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	118人 (88)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第11回 中高生への関わり方	特定非営利活動法人 日本子ども ソーシャルワーク協会 理事長 寺出 壽美子	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	101人 (80)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第12回 LGBTQ	特定非営利活動法人 SHIP 理事長 星野 慎二	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	89人 (62)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第13回 通信、便りの工夫	日本機関紙協会 神奈川県本部 事務局次長 御崎 史子	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	31人 (16)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第14回 特別な配慮が必要な児童への関わり 方	川崎市総合教育センター 特別支援教育センター 塚越相談室	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	56人 (31)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)
第15回 地域施設や組織の理解と連携の工夫	川崎区地域教育会議 議長 宮越 隆夫	館主 長 主査 査 主任 任 職員 員 臨時職員	27人 (18)	生涯学習プラザ (各子ども文化センター)

研 修 名	講 師	対 象	参加数 (内わい)	開 催 場 所 (オンライン会場)
第16回 児童健全育成論	認定NPO法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 宏之	館長 主任 職員 臨時職員	37人	生涯学習プラザ
第17回 アレルギー対応（エピペン実習含む）	川崎市教育委員会事務局 学校教育課 健康教育課 指導主事 安田 幸	館長 主任 職員 臨時職員	44人	生涯学習プラザ
第18回 いじめの理解と対応	特定非営利活動法人 日本スクールソーシャルワーク 協会 会長 入海 英里子	館長 主任 職員 臨時職員	31人 (19)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第19回 野外活動（野外での火気取り扱い）	こども夢パーク	館長 主任 職員 臨時職員	63人	こども夢パーク
第20回 室内・室外での遊びや体験活動を通じたコーチング	日本レクリエーション協会	館長 主任 職員 臨時職員	76人	生涯学習プラザ

④資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取得者数	開 催 場 所
児童厚生員等基礎研修会 (児童厚生2級)	一般財団法人 児童健全育成推進財団	職員	17人	T O C 有明 Convention Hall
神奈川県放課後児童支援員 認定資格研修 (6・9・11・1月開催)	(株)東京リーガルマインド	職員 臨時職員	85人 (45)	横浜技能文化会館 (各こども文化センター)
甲種防火管理者講習会	川崎市消防防災指導公社	館長	9人	かわさき保育会館
防火・防災管理者再講習会	川崎市消防防災指導公社	館長	1人	かわさき保育会館
衛生推進者養成講習	一般財団法人 安全衛生マネジメント協会	館長 主任	9人	かわさき保育会館

【別表4】教育実習等の受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
有明教育芸術短期大学	1人	小杉こども文化センター	12日
昭和女子大学	1人	新丸子こども文化センター	12日
東京家政大学	2人	柿生こども文化センター	12日
		南菅こども文化センター	12日

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、当財団が実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

また、2025年4月からの新たな公益法人制度に対応するため、職員による各種説明会への参加など、情報収集や制度の理解に努めながら、実施に向けての準備を着実に進めてまいりました。

ア 業務・組織改善の取組

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、適切な入札制度等により、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。

組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、組織の課題整理や中長期ビジョンの検討など改革に向けた取組みを通じて、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

イ 財務業務の適正運営の取組

経理・会計処理においては、適正な会計処理の継続的な実施に向け、各課に周知徹底を図りながら専門家等のアドバイスを受け、経理事務の改善を推進すると共に、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施しています。

また、2025年度の公益法人制度の改正において、「中期的収支均衡」や「公益充実資金」など会計基準の変更があり、財務規律の柔軟化や明確化が求められていることから、改正の趣旨を踏まえながら、適正な財務管理と情報開示等に努めてまいります。

ウ その他

2023年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て、理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、6月25日に行政庁（神奈川県）へ報告しました。なお、関係書類等については本法人の事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

2025年度の事業計画書及び収支予算等は、第4回理事会で承認を受け、2025年3月26日に行政庁に提出しました。